



安全



社会



環境

## 資源循環の取組み

### ■廃棄物の減量とリサイクル

列車や駅から日々排出される一般廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに、生活サービス事業における飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物等、JR東日本グループから排出される廃棄物は多種多様です。

これらの廃棄物を削減するため、発生の抑制(リデュース)、再利用(リユース)、再資源化(リサイクル)を進めているほか、リサイクルについては廃棄物の種類ごとに達成目標を定めて取組みを進めています。

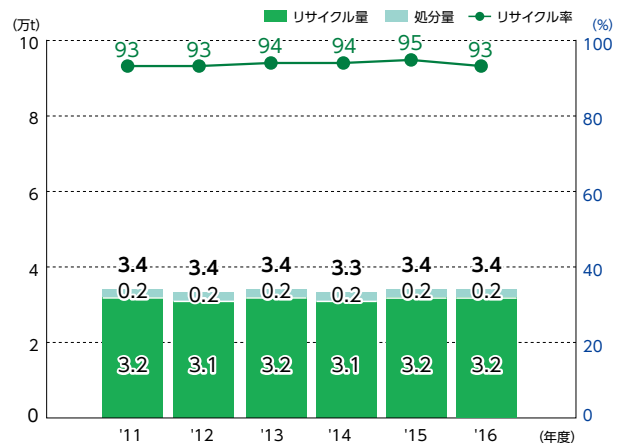
### ■駅・列車からのゴミ回収と再生☆

駅や列車から排出されるゴミには資源ゴミも含まれているため、再び資源として利用できるよう、これまで駅に分別ゴミ箱を設置し、お客さまにもゴミ分別のご協力をいただいております。2010年10月には、「JR東日本東京資源循環センター(事業運営:(株)東日本環境アクセス)」を稼働し、徹底した分別を実施することで、さらなるリサイクル率向上のための取組みを進めています。



JR東日本東京資源循環センター

[ 駅・列車からのゴミの推移 ]



### ゴミの社内循環活用

駅で発生するゴミについて、社内での循環利用を進めています。

駅や列車の分別ゴミ箱で回収した雑誌、新聞紙等は、コート紙や社内の事務用紙等にリサイクルし、使用しています。



駅等で回収された新聞古紙を社内の事務用紙にリサイクル



安全



社会



環境

### ■オフィスにおける廃棄物削減の取組み☆

本社・支社等の各オフィスでは、ペーパーレス化による廃棄物の削減や、ゴミ箱の工夫等によりリサイクルの取組みを行っています。2016年度には、廃棄物2,159トンのうち、1,728トン(80%)をリサイクルしました。



分別ごみ箱(千葉支社社屋内)

### ■バイオガス化による食品リサイクル事業参入

JR東日本グループは、2016年8月にJFEグループと共同で設立した株式会社Jバイオフードリサイクルにより、食品リサイクル事業に参入します。2018年夏頃に完成予定の横浜工場では、JR東日本グループの駅ビルやエキナカをはじめ、市中から一日あたり最大80tの食品廃棄物を受け入れ、メタン発酵処理によりバイオガス化し、発電を行います。再生可能エネルギーとして、一般家庭約3,000世帯分の発電量を見込んでおり、排熱の一部も工場内で有効活用します。



Jバイオフードリサイクル横浜工場

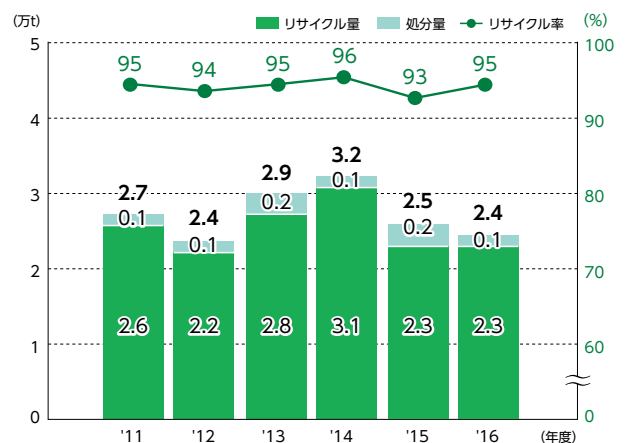
### ■廃ペットボトルから土木資材へのリサイクル

駅や列車から排出された廃ペットボトルを再生し、樹脂製防草シート(商品名:ナクサR-PET)を製造するリサイクル体系を構築しました。これまでの樹脂製防草シートの主成分はポリエチレンでしたが、廃ペットボトル(ポリエチレンテレフタレート)を主成分とする防草シートを開発、試験施工を経て製品化に成功し、2009年に実用化しました。

### ■総合車両センター等でのリサイクル☆

車両のメンテナンス時に発生する廃棄物のリサイクルにも取り組んでいます。各地の総合車両センターでは、廃棄物を20~30種類に分別することを徹底し、廃棄物の減量とリサイクルを図っています。2005年度からは、廃車両のうち外部に売却したうえで解体される車両についても把握の対象として取組みを強化しています。

[ 総合車両センター等からの廃棄物の推移 ]





安全



社会



環境

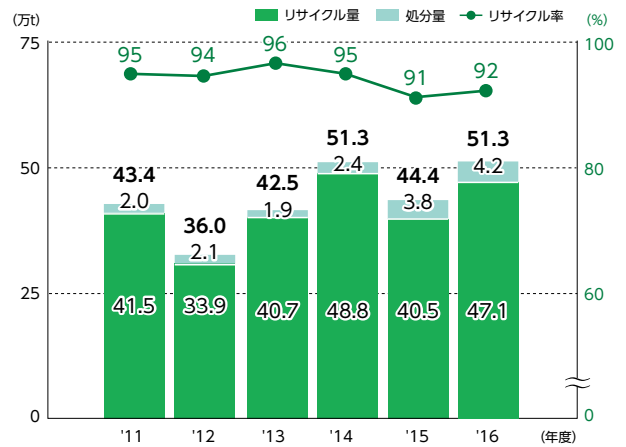
### ■設備工事における廃棄物の削減☆

設備工事における廃棄物の削減のため、建設副産物を適正に処理し、廃棄物を抑制する設計・工法を社内で標準化するなどの取組みを進めています。

なお、駅や構造物の建設やメンテナンスによる設備工事では、外部からの受託工事\*による約7.2万トンを含めています。

\*受託工事 列車の安全運行の確保等のために、JR東日本が自治体等から委託を受けて行う社外施設の工事。

【設備工事からの廃棄物の推移】



### ■水資源の有効活用☆

JR東日本では、年間1,088万m<sup>3</sup>の水資源を使用しています。中水\*の利用を積極的に進めており、雨水や手洗い水をトイレの洗浄水として再利用しています。本社ビルでは2016年度に使用した3.3万m<sup>3</sup>の水のうち、2.5万m<sup>3</sup>を再利用しました。

\*中水 上水と下水の間に位置づけられる水の用途。水をリサイクルして限定した用途に利用するもの。

### ■乗車券類のリデュースとリサイクル☆

回収された使用済みのきっぷは製紙工場へ送り、きっぷの裏面の鉄粉を分離してトイレトーパーや段ボールにリサイクルしています。2016年度には回収量292トンすべてをリサイクルしました。

また、回収した磁気定期券についても、固形燃料としてリサイクルしています。



使用済みきっぷをリサイクルしたトイレトーパー



安全



社会

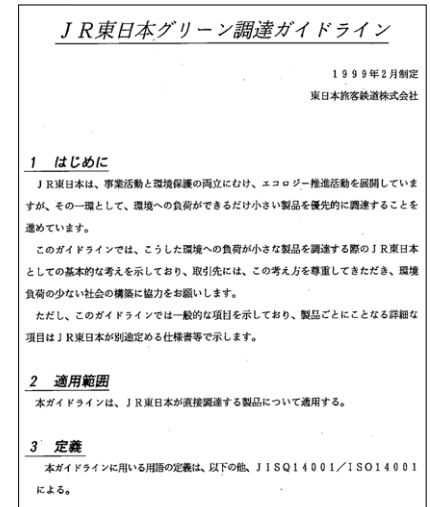


環境

## ■グリーン購入の推進

JR東日本では、環境負荷ができるだけ小さい製品を優先的に調達することを進めており、1999年に「JR東日本グリーン調達ガイドライン」を制定し、材料や省資源化、梱包材などについて考え方を記載しています。

また、オフィス等で使用する事務用品等についてグリーン購入を促進しています。



JR東日本グリーン調達ガイドライン

## ■CSR調達

JR東日本では、資材調達に関する取引先の選定に際しては、自社のウェブサイト上に「JR東日本の資材調達に関する行動基準」を掲載し、法令遵守や地球環境保護等に配慮し、企業の社会的責任の遂行を重視した調達を行うことを表明するとともに、お取引先の皆さまへのお願いとして、関係法令の遵守や環境負荷低減を求めています。

また、原則としてすべての資材関係取引先に対して、「CSRの取組み」に関する調査を年に1回実施しており、「グリーン調達や環境負荷低減の取組みの有無」、「従業員の人権に配慮する取組みの有無」、「その他の社会に及ぼす影響などに関するコンプライアンスの取組みの有無」などの実施状況に関する把握に努めています。これらの調査結果については、取引先を選定する際の判断材料の一つとして活用しています。

(参考) JR東日本の資材調達に関する行動基準(当社ウェブサイト)  
[http://www.jreast.co.jp/order/procurement/code\\_of\\_conduct.html](http://www.jreast.co.jp/order/procurement/code_of_conduct.html)